

平成25年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)
(予知公募研究)

1. 課題番号 20 _____-Y-01 _____ (※ _____)

2. 研究課題名 (データベース化に必要ですので課題名の英訳を御記入ください)

和文: _____十勝岳と雌阿寒岳における噴火推移の高分解能な解析とマグマ供給系_____

英文: Magma plumbing system and high resolving analysis for eruption sequences in the Tokachidake and Me-akan volcanoes, Hokkaido.

3. 研究代表者所属・氏名 北海道教育大学旭川校・和田恵治

(地震研究所担当教員名) _____

4. 参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	参加内容
和田恵治	北海道教育大学旭川校・教授	研究総括, 地質調査, 鉱物・ガラスの分析
佐藤鋭一	神戸大学大学教育推進機構・助教	地質調査, 岩石組織の解析
中川光弘	北海道大学理学院・教授	地質調査, 全岩分析

5. 参加者が分担した役割 (200-400 字程度で記入してください)

北海道の活火山で噴火準備段階にあると推測される雌阿寒岳と十勝岳の両火山におけるマグマ供給系モデルを構築することを目的とした研究である (総括: 和田)。

雌阿寒岳では, 約 2500 年前~1000 年前に活動した阿寒富士の噴火史の詳細 (地質調査・まとめ: 佐藤・和田) と玄武岩マグマの変遷過程の解明を行った (組成分析・組織解析: 和田・佐藤)。

十勝岳では, 1962 年噴火と 1988-89 年噴火における火山噴出物の微細組織の解析を中心に行った (組成分析・組織解析: 和田・佐藤, 全岩分析: 和田・中川)。

6. 研究実績 (論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無)

佐藤鋭一・和田恵治 (2014) 雌阿寒岳, 阿寒富士の噴火史と噴出物の岩石記載. 日本地球惑星科学関連学会連合大会予稿集, SVC54-P06.

安齋圭亮・和田恵治 (2013) 雌阿寒岳, 中マチネシリ火砕噴火期 I の特異な噴火推移とそのマグマ供給系. 日本地球惑星科学関連学会連合大会予稿集, SVC53-P06.

日向宏伸・和田恵治・中塚裕 (2013) 十勝岳 1962 年, 1988-89 年噴火におけるマグマ活動の推移・噴火様式の違いとマグマ供給系. 日本地球惑星科学関連学会連合大会予稿集, SVC53-P05.

佐藤鋭一・和田恵治 (2012) 雌阿寒岳, 阿寒富士の噴火活動史. 日本地球惑星科学関連学会連合大会予稿集, SVC53-P18.

安齋圭亮・和田恵治 (2012) 雌阿寒岳, 中マチネシリ火砕噴火期 I における火砕噴火推移の特質. 日本地球惑星科学関連学会連合大会予稿集, SVC53-P19.